

会 議 録

会議の名称	まち・ひと・しごと創生総合戦略等検討委員会（第5回）
事務局	企画財政部企画政策課企画政策係
開催日時	平成28年1月18日(月)午後6時00分～午後8時10分
開催場所	西庁舎2階第五会議室
出席者	委員長 渡邊 嘉二郎 委員 副委員長 本間 紀行 委員 委員 田村 裕一 委員 川合 祐之 委員 北島 彩子 委員 小宮 貴大 委員 鳴海 多恵子 委員 河野 律子 委員
欠席者	飯田 千洋 委員
事務局	企画政策課長 水落 俊也 企画政策課長補佐 中田 陽介 企画政策課係長 廣田 豊之 株式会社創建 大谷 優
傍聴の可否	㊦ 一部不可 不可
傍聴者数	0人
【会議次第】 1 小金井市まち・ひと・しごと創生総合戦略（素案）について (1) 小金井市人口ビジョン（素案）について (2) 小金井市まち・ひと・しごと創生総合戦略（素案）について 2 その他（意見交換、今後の予定等）	

【会議結果】

- 1 小金井市まち・ひと・しごと創生総合戦略（素案）について
○事務局から説明《資料No.15》

第1部の総論

策定趣旨、策定の考え方または基本的視点、策定体制等について、策定方針に基づいて記載した。

第2部の小金井市人口ビジョン

以前の検討委員会でお示しした人口ビジョンの素案をベースに作成したものである。人口の現状分析や人口推計のほかに、まちの分析として市民意向調査の概要、あと産業に関するデータなど幾つかのデータを踏まえて作成している。分量が多いため、詳しくは資料をご覧頂きたい。

48ページ以降が人口の将来展望を記載しており、その部分は今までの人口ビジョンではお示ししていない部分。

人口の将来展望

47ページまでの人口やまちの現状分析から、今後の課題として6つの課題を48ページに記載している。この課題については総合戦略を策定する前提の課題として、以前までお示しした課題と同じものである。

そして、その課題を踏まえて、人口の将来展望と目指すべき方向性を示していくため、50ページ以降に人口のシミュレーションを出した。これは市で独自に推計して、総合計画との整合を図っている人口推計（21ページ）を基準とし、出生率や移動率について仮定値を設定し、その影響把握数というものであり、3つのケースをシミュレートした。

ケース1は、出生率が1.6まで上昇するケース、ケース2は、出生率が1.9まで上昇するケース、ケース3は、出生率と移動率ともに現状の実績を一定で推移させるというケース。ちなみに基準となる21ページの人口推計については、出生率については一定で推移するという形にしており、移動率は10年かけて定率で半減していくというような形となっている。それを基準としてケース3まで設定している。

なお、この出生率の仮定値は、市民の意識調査での予定子ども数の平均1.6を10年かけて近づけていくというケース。理想子ども数の平均1.9を15年かけて近づけるケースを仮定値として設定している。

移動率については、独自推計で移動率が10年かけて定率で半減するということを想定しているが、こちらは半減せずに一定という形で仮定をしている。

このシミュレーションの結果を51ページに示している。いずれの場合も人口減少などが緩やかになるが、本市においてはケース2が最も人口が多く

なるというケースになっている。続いてケース3、ケース1というふうが続いている。

したがって、合計特殊出生率の向上は人口数の総数に大きな影響を与えるということが、こちらでわかるかなと思っている。

52ページの、上から年少人口の割合、真ん中が生産年齢人口の割合、一番下が高齢化率の推移ということでお示ししている。年少人口は出生率の向上で約15%前後まで上昇している。

一方、生産年齢人口の割合は、出生率が向上したとしても割合は減っている。移動率の向上については、20歳から30歳代の転入が維持されるということもあり、生産年齢人口の割合の維持、向上には大きな影響を与えるものと考えている。

一番下の高齢化率については、出生率や移動率の向上により30%弱におさまると推計されている。現在は20.5%だが、そちらの約1.5倍までは上昇を続けるということ自体については変わらない。

これらのことから、53ページ以降に将来展望として、人口減少の影響を回避または遅らせるために、出生率向上に関係する若年層や子育て世代の定住が促進されるというような、子供を産み育てやすいまちを目指すということを将来展望として記載をしている。

また、生産年齢人口を維持して地域経済を活性化させていくために、転入を維持していき、住みやすい、住んでみたいまちを目指していくということも将来の展望として記載している。

そしてこれらの展望を実現するための視点として、3つ掲げており、この視点に基づいて総合戦略を策定することとしている。この視点が総合戦略の柱である基本目標につながっていくということになる。

(追加したデータ)

○35ページ 子育て世代のニーズに関する調査で母親の就労の関係の意向を子ども・子育てプラン「のびゆくこどもプラン」のところのニーズ調査でしているため引用している。

○39ページ 農業の就業者数

○40、41ページ、図59、60

国のビッグデータである地域経済分析システムのほうから引用したデータであり、小金井市がどういう産業で割合が高いかというところを示したデータ。

○46ページ 図の66、67は滞在人口、市内の行事の参加者数

前回12月の検討委員会でお示しした総合戦略の素案をベースに冊子として落とし込んだものだが、前回と若干修正とかを加えた部分がある。

(変更になった点)

○61ページ 「審議会などにおける公募市民の割合」という部分を追加。「多様な手法による市民参加の推進」に付随する指標として掲げる。ご意見でも、皆さんが参加できる仕組みというようなご意見もあったことから、市民参加についての指標も設けさせていただいた。

○63ページ 「子育てしやすい環境整備」を変更。括弧書きで「すべての子育て家庭に向けた情報提供、相談体制などの充実」を入れ、それだけにとどまらない幅広く子育てしやすい環境を整備していくという趣旨を示していくために、こういう形の表現に変えた。

○63ページ 「妊娠・出産期、新生児期、乳幼児期を通じての母子の健康の確保」を追加。これは、子育てには妊娠・出産における時期からずっと切れ目なく支援していくためには、母子保健事業というものも重要であるということ、その点が観点として抜けていたことから加えたものである。

○63ページ 待機児童の推移を掲載。KPIの待機児童数の現状値として257人となっているが、現状、平成27年で164人に減っており、その現状を伝え、誤解を招かないようにということで、こういう形でグラフを追加した。

○64ページ 「子どもの育ち・学びのための環境の充実」で、教育環境が良いというのは小金井市の大きな魅力の1つであることを全面に出していくために追加等を行った。

「地域、学生ボランティアの一層の活用による個別学習の充実」ということで、個別学習にボランティアさんがかかわってもらおうというふうな形のことも教育面では考えており、その点を追加した。

「安全・安心でいきいきと学べる環境」では、学習環境の確保ということで、以前いただいたご意見を反映させている。

教育相談の充実ということで、精神的なケアについて、子どもや保護者の心に寄り添った教育相談の充実ということを追加。教育が充実しているという小金井の特徴を出していくために、追加等を行った。

○64ページ KPI 「大学との学習支援に関する協働研究連携協力校数」を追加。

これまで「授業の内容がよくわからない児童生徒の割合」という指標を載せていたが、これは教員の力の指標になっているというようなご意見を踏まえ、大学との学習支援に関する協働研究連携協力校というのを設定した。学芸大学さんとの連携により、教育力の向上を図る取り組みをしているところである。

○65ページ 女性の活躍とかワーク・ライフ・バランスの観点から、審議

会などへの女性の参画率、男性職員の育児休業取得率を加えている。女性が誰もが参画しやすい環境を作り出すということが重要と考えており、審議会などの女性の参画率を高くしていくという観点の指標を入れている。

男性職員の育児休業取得率ということで、小金井市役所が市内最大のサービス事業所であるというところで、市が率先して行うべきというところもあることから、目標として設定している。

○67ページ 「地域の防災・防犯体制の確立」というところで、こちらは消防団の関係の記載をしている。「消防団の設備・装備、および災害対策物資・設備の充実」ということで、こちらの記載を加えている。地域防災の要となる消防団の方のご活躍を含め、地域の防災・防犯体制の確立をしていくために記載をしている。

○68ページ 「健康づくりの推進」のところ、「特定健診・保健指導、フォロー健診の充実」という部分を追加。「65歳健康寿命の延伸」をKPIとしているが、こちらについては、当初生活習慣病予防の講習を入れていたが、それだけではなくて特定健診での保健指導、または市独自のフォロー健診といったものも非常に重要な要素になるため追加した。

○69ページ 地域に入っていくきっかけとして、ボランティアセミナーというものに参加していただいて第一歩を踏み出してほしいということから、ボランティアセミナーの参加者数を追加した

(基本目標の数値目標)

基本目標に対しても、大きなくくりの目標数値を設定するというような国の指針等もあるため、目標を設定した。

○基本目標1の数値目標

・「市内滞在人口の1日平均人数の増加」 滞在人口については今回新たにデータでも加えたが、市内に2時間以上滞在している人というところで、平日と休日それぞれこちらに載せている。このデータについては、国のビッグデータではかることができる。

・「市内3駅の1日平均の乗客数の増加」 市内3駅ある中の乗客数、26年度は9万250人というものを増加させていく。交流人口の増加、地域での活性化というのを全体として図っていく。

○基本目標2の数値目標

・「合計特殊出生率の向上」 現在の小金井市は1.34の出生率だが、こちらについて向上させていく設定としている。

・ちょうどその世代である「若者・子育て世代、15歳から39歳の転入超過者数の増加」を目指していく。なお、転入超過者数は、転入者から転出者を引いた単純な人口増という形の部分である。

○基本目標3の数値目標

・安全・安心なまちづくりや住みやすさ、住み続けたいという定住といった

ところから、「小金井市の住みやすさの向上」

・「小金井市に住み続けたいと思う市民の割合の増加」ということで、こちらは小金井市の第4次基本構想で掲げられている目標ではあるが設定した。パーセンテージについては、市民アンケートを行ったときに「住みやすい」と感じた方の市民の割合というところを、また「住み続けたい」と感じた市民の割合といったところを載せているところであり、市民意向調査で目標数値を測っていく。

(今までのご意見の整理)

○大学についてのご意見がたくさん出た。

大学との連携の活用や、学生にやさしいまちといったような視点のご意見があった。人口ビジョンでも学生の世代の転入・転出が多いということからも、そういった議論になったところである。

大学との連携については、59ページの施策③「小金井の強みを生かした地域経済の活性化」というところの白丸の3番目に「市内大学と連携した教育産業・クリエイティブ産業の育成・集積の促進」

大学を活用するという話がいろいろあり、教育産業的などころからさらに広げていくというような観点も意見としてあったので、そういった点を掲げている。

産業振興プランでもこういった取り組みを進めていくことになることから入れている。

61ページの施策②の「交流、協働、連携にもとづいた活動の充実」というところの白丸3番目、5番目「市内大学・研究機関、地元企業との交流の促進」で、大学、研究機関との交流、または連携して起業を考えたらどうかというようなご意見もあったところであり、そのような交流というところを行っていくというような部分を記載している。

64ページ施策の①番の白丸3番目に「大学等と連携した子どもの遊び場の充実」では、冒険遊び場（プレーパーク）については評価が高いというような意見もあり、それをより進めていくということで、KPIでも設定した。

施策②番のほうで、白丸の2番目と4番目に当たるところで「大学や教育機関等との連携による教育力の向上」というのが、指標でも設定した学習支援の協働研究連携協力ということで、今、大学と市でいろいろな研究を進めている。そういったところで教育力を向上させていくというようなところを載せている。

また、「学生ボランティアさんの一層の活用による個別学習の充実」ということで、学生ボランティアさんを活用した個別学習の充実を図るということで、大学の学生さんを活用した形で進めていくというような取り組みを進めている。

69ページ、施策②番の「豊かな地域生活の実現」というところの白丸4番目に「高校生・大学生など青少年グループ活動の支援」ということで、学生でも活動できるようにいろいろ支援していく形、特に大学生が、学生が住みやすいまち、住んで楽しいまち、といったようなところにつなげていける支援について載せている。

大学の連携・活用というご意見については取り組みを一定程度反映させていただいていたところである。

あと、大学のキャンパスを市民に開放するといった形のご意見をいただいている。こちらについては大学とも連携協定を結びながら、そのような点も検討している。

〇つながり、コミュニティといった部分について多くのご意見が出た。

つながりも子育てや防災・防犯といった広い分野に及んでおり、そういったものを記載した取り組みとしては、主に子育てのところになるかと思う。

63ページ、施策②番「地域全体で子育て家庭を見守る体制」というところで、白丸の1番目であるとか3番目、地域のネットワークを充実させていこうといったところであるとか、また白丸3番目に子育て関係のNPOさん、活発な活動団体がたくさんあるので、そういったところを積極的に広報することによって利用しやすい環境を生み出していく。そこで子育てが孤立化しないようにつながりを持っていこうという形でのネットワークといったところを記載している。

また、ママさんコミュニティといった取り組みも他市でもあるのご意見もあったところであり、そういったところの白丸3番はそのようなニュアンスも含んだ形にしている。

67ページ、地域の防災・防犯体制ということで、こちらについては施策②の白丸の1番目「自助・共助による地域防災力の向上」ということで、こちらにつきましても町会を含めた防災力の向上というのは非常に重要になっており、地域の方とのつながりによって地域防災力を向上させていこうというような形のことを、こちらに組み込みとして記載させていただいている。

白丸の4番目、こきんちゃんあいさつ運動という形で、こちらは地域の防

犯活動の推進ということで、こきんちゃんあいさつ運動については前回でもいろいろご質問が出たところであり、商店街などにも協力してもらってというお話があったところである。こきんちゃんあいさつ運動については商店街も含めて皆さんでやっていくという形になっており、そういったつながりも防犯上はとても重要であり記載している。

69 ページ、施策①番の「地域でのふれあい・つながりのきっかけづくり」ということで、地域に入っていくためのきっかけづくりをボランティア活動であったりとか、また働きながら地域活動に参加できるというような形の、なるべく参画しやすい環境づくりを支援していくということを記載している。

つながりというのは非常に難しい概念であり、ひとり暮らしの方で働いている、そういう段階の人も地域につながるができるといったところについては、今後もいろいろご意見いただき変えていきたいと思っているところである。ほどよい拘束などは、今後のつながりとか地域のつながりのキーワードであり、今後の課題になっていくのかなという考えである。

○産業や観光の観点と住みやすさという視点である。産業全体の方向性としては、大企業の誘致というのは土地的にも行えないかなということもあることから、創業や起業支援というものに今後の力を入れていくといったところを主に記載している。

59 ページの施策③のところの白丸の1番目の「東小金井事業創造センターにおける産業の高付加価値化と創業・起業支援」といったところで、市内に定着を図り、大企業でないが、そういった起業側の支援をしていくというようなところを方向性としている。

この創業・起業というのは職住近接につながるというところで、その点につきましては65 ページの「小金井らしい働き方・ライフスタイルの実現」というところに、「職住近接となるしごとの創出」というところに入れていく。

観光については、いろいろな観光というのは小金井市としてはなじまないというような部分であったりとか、観光によって多くの人たちが入ってくると安全・安心が崩れる可能性があるというようなご意見もたくさんいただいたところである。観光については、桜まつりを含めたイベントはあるが、まちなか観光といった魅力の再発見に力を入れていくというような、そういった観光を推進していく形としている。

60ページの施策②番のところに、「地域資源を活用した交流人口の拡大」というところで、「まちなか観光の充実を通じた交流人口の増加」と記載がある。

記載できていない部分では、名産品、栗とかそういった地場野菜がいろいろ出てきたところである。そちらについては、今後の産業で名産品を作っていくということも1つの課題かなというところがあるので、課題として今後検討させていただければと思っている。

また、シティプロモーションの観点で、ご意見でこきんちゃん等のイメージ戦略があるかというご意見もいただいていたところであり、戦略は現時点ではないというところではあるが、観光大使も含めた活用というようなところを含めて、シティプロモーションについては今後検討していかなければいけない課題だと認識しているところである。

(主な意見)

○「男性職員の育児休業取得率」について、これは育児休業を取得する権利がある人に対する割合か。そうだとすると、今の世の中では、13%は少ないのではないか。こういった目標に拘束力はあるのか。

→権利がある人に対する割合である。市で既に策定している行動計画で掲げている数値である。実際には、今まででもほんの数人しかいなかった。

○政府の掲げている目標も13%であるようだ。

○「大学との学習支援に関する協働研究連携協力校数」は、小学校と中学校を合わせたものか。そうであるなら、もっと数が多くてもよいのではないか。学校数ではなく回数や頻度のようなものでもよいのでは。

→今年度、協定を結んで始まったところなので、まだ回数などは出しにくい。14校という数字は小学校9校、中学校5校の合計である。

○文部科学省の方から、国立大学は地域との連携をしなくてはならないとされているので、もっと増えていこう。

○農工大や法政大にも働きかけてはどうか。あちらもきっかけを待っていると思われる。

○「ボランティアセミナー」とはどのようなものか。

→学芸大と連携して、地域でボランティアをしたい人や、既にボランティアをしている人でレベルアップをしたい人向けの講座である。

○「公民館の平均稼働率」があるが、学校の体育館や多目的室の開放などは入らないのか。実際には、公民館以外にもそういった施設も利用されているので、公民館の稼働率だけをみるのでは不十分では。学校に関わっている団体が主に利用しているかもしれないが、それ以外の団体も利用しているはずである。把握しにくいということはあると思うが。

→今のところは公民館の利用だけで考えている。

○学校の方に施設の開放を促すという効果もあるかもしれない。大学の施設を利用しているものもあるかもしれない。

○それらも含めていくと数字が上がるかもしれない。

○人口推計のシミュレーション結果で、ケース②では平成 72 年に 125,505 人しているが、個人的には無理に思う。出生率が 1.9 まで上昇するのか。過大評価になっているのではないか。自分の周りを見ても、子どもが増えている人がいる一方で、40 代で独身という人も増えている。

→この数字は、シミュレーションの一つとして示しているもの。国でも出生率を 1.8 や 2.07 などを示しているが、それは非常に厳しい数値であり、実現可能性に難があるという話もきく。

○基本目標 1 の数値目標が示されているが、「市内滞在人口の 1 日平均人数の増加」や「市内 3 駅の 1 日平均の乗客数の増加」より、もっと交流人口につながる数値が出せないか。人数というより、一人ひとりがもっと小金井市に来る頻度を上げることができないか。

○基本目標 2 では「若者・子育て世代の転入超過者数の増加」が数値目標に挙げられているが、小金井市は大学があることで転入はあるので、転出を減らす、という目標の方がよいのではないか。

○「市内滞在人口の 1 日平均人数」などは、ビッグデータからのものか。同様に、交流の頻度などを示す数値はないか。

○そういった個人の動きを把握したデータは難しいと思う。

○「乗客数」は JR だけか。バスは含むことはできないか。

→JR だけであり、バスは含んでいない。

○「市内滞在人口・・・」のところの「休日」というのは土日のことか。

→日曜日と祝日のことである。

○「待機児童数」が現状値 257 人で目標値0人になっている。市長も待機児童数をゼロにしていくと言っているのですが、一度ゼロになっても、その後、人が入って来ることなどにより、また増えてしまうことは考えているか。

○子ども子育ての会議では、ゼロを目指すとしているが、確かに、ゼロになると、外から人が来たり、今まで働いていなかった人が働きだす人もいる。一方で、子どもが少なくなっていくということもあるので、バランスを取ってゼロにしている。経営の問題が起きないように、新しい施設は作らずに定員増で対応する方向で考えているようだ。

○多めに設定すると、過剰投資になってしまうともある。

○平成 31 年度がゼロというのは、そこがゴールにみえてしまう。それが続いていくのが気になる。

○武蔵野市では、増やしすぎるとつぶれてしまうので、バランスを取るの難しいが、目標としてはゼロにすることにしているようだ。施設を増やすのではなく、預かってもらえるところを増やすことが必要と考えられる。

○定員を柔軟にすることはできるか。

○今はどこの自治体でも待機児童数はゼロを掲げている。

○この後がどうなっていくのかが気になるだけで、目標としてはよいと思う。

○「大学との学習支援に関する協働研究連携協力校数」については、現状値の2校について少ない印象を受けた。これは先ほど話が出た大きなプロジェクトのみではないか。もっと規模の小さいレベルものもあると思うし、国分寺市、小平市との3市連携の取組もある。小さいものも拾い上げていかないと、目標値の 14 校も難しいのではと思う。個別の学校単位では取り組んでいることもあるのでは。

○現状値の2校は、学芸大との協定によるもので、試験的に行っているものである。それ以外にも大学との連携した取組はあると聞いているが、全体を把握しきれないということもある。指標をどう設定するかにもよるとは思う。

○大きなプロジェクトだけでは、14 校にはならないと思う。

○今回は、数値が出てくると、急にわかりやすくなって議論になったということだと思う。72 頁でも PDCA の C で数値目標等の把握という記載があるが、もっときちんと数値化

していくと、今日の意見に対応できるかもしれないが、把握しやすい数値だけが評価の対象になってしまう。PDCAは経営のためのものであって、行政の取組をなんでも数値化してしまうことには疑問を感じているが、どのように数値化していくのかを考えるのはよいと思う。市民感覚に合った指標をどう作るか、というのが課題になる。

○地方には、大学がなくて、なんとか大学に来てほしいと考えているところもあるが、小金井市には大学が3つあって恵まれている。そういった中で大学との連携も出てきている。それを本気で進めていくには、これから連携の実態を把握して、その上で進めていくことが重要になる。

○本日の素案をみると、これまで、この委員会で議論したことが、よく反映されていると思う。

○人口ビジョンは、4つのシミュレーションが示されているが、これから、そのどれにするかを選ぶことになるのか。

→この中から1つを決めるということはしていない。

○他の自治体ではどのような形が多いか。

→自治体によってさまざまであるが、一つに決めている自治体もある。

○将来人口としては、マイナスか現状維持が目標になるのではないか。

→出生率の数値や、具体的な人数を設定している自治体もある。

○高齢化率を気にしているが、70歳を過ぎても元気な人も多く、60歳で定年になっても、第二の人生で活躍できるようになっているとよい。

○出生率については、予定と希望の差を埋めるポイントが何かかわかるとよいと思っているが、それが何か自分でもよくわからない。学芸大には文京区と小金井市に幼稚園があるが、文京区の園児には兄弟が少なく、小金井市の方では3人兄弟も多い。また、保育園に預けている家よりも幼稚園に通わせている家の方が、子どもの数が多い印象がある。女性が働いている家庭では子どもが少ないのなら、子どもを預けやすくすることは、出生率の向上につながるのではないかとも思う。住宅費の差もあると思うが、地域の出生率を上げるポイントが何か別にあるような気がしている。

○子どもを遊ばせられる環境があることや、親が近くにいる、いざという時に頼れることが、子どもを育てる上で重要ではないか。

○人によって必要な条件は異なるのではないか。お金の問題という人も多いと思う。

○親との住んでいる距離は関係がありそう。小金井市は戸建てが多く、子育てがしやすいと思う。都心より出生率も高い。

○学生を除いて出生率を出すことはできないか。

→学生かどうかでデータを除外することはできないと思う。

○出会いの場を作って、うまくいけばここに住んでもらうようなことも考えられる。

○他の市でも、出会いの場を作るような取組が出ていた。

○目標とのギャップをどう取るかは難しい問題。低くするとすぐに達成してしまうかもしれないし、高くすると単なる夢になってしまう。

2 その他(意見交換、今後の予定等)

○事務局から説明

・2月14日(日)に市主催の市民フォーラムが開催されるので、ご都合がよい方は是非ご参加願いたい。

・次回第6回は3月初旬頃を予定している。

～以上で会議終了～